

福島県双葉郡教育復興ビジョン推進計画書第四期（案）に対する主な意見とその対応まとめ

※ページおよび行番号は【資料11】に対応するものです。対象が複数行にわたる場合の行番号は、最初の行のみ記載しています

※【資料11】は第三期から第四期の変更部分の見え消しです。一部の意見等の内容はこれまでの第四期案への意見であるため、【資料11】内では確認できない部分があります。

No	ページ	行 番号	該当項目	意見等の内容	対応
1	1	2	1 はじめに	今年（令和7年）2～3月に改訂する計画において、「震災から13年が経過した」というのは時期が経過しすぎているので、14年をベースにした書きぶりにはどうか。（3ヶ所）	ご意見を踏まえ修正します。
	1	25	1 はじめに		
	1	28	1 はじめに		
2	1	2	1 はじめに	ビジョンのスタートが25年なので「この13年間」を削除。	ご意見を踏まえ削除します。
3	1	5	1 はじめに	平成25年7月31日に「福島県双葉郡教育復興ビジョン」（以下「ビジョン」という。）を策定し、双葉郡の未来へむけて、双葉郡ならではの魅力的な教育を推進するため、と入れ替え。	ご意見を踏まえ修正します。
4	1	29	1 はじめに	「ほとんどの児童生徒が震災や原発事故後に生まれているため」という記載は、安易に被災児童生徒・世帯対象外とも読めてしまうため、あえて書かなくてよい。	ご意見を踏まえ下記のとおり修正します。 「震災や原発事故後に生まれた児童生徒にも配慮しつつ」
5	1	31	1 はじめに	「復興」→「復興・創生」 【理由】 復興だけにとどまらず、「復興・創生」のフェーズであることを踏まえ修正しております。ご確認ください。（6ヶ所）	ご意見を踏まえ修正します。
	2	17	1 はじめに		「教育復興」であり、「教育創生」という表現は不自然であると考え、当該箇所は原案のままとします。
	2	28	2 ビジョン推進の3つの柱		ご意見を踏まえ修正します。
	3	3	2 ビジョン推進の3つの柱		
	3	7	2 ビジョン推進の3つの柱		
	3	27	3.1.2 「ふるさと創造学」の推進		
6	1	32	1 はじめに	「小・中・高・義務教育学校・特別支援学校」→「小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・特別支援学校」 【理由】 他の記載箇所と平仄を合わせています。	ご意見を踏まえ修正します。
7	2	14	1 はじめに	目次はすべて「取組」で統一されています。この部分も「名詞」なので「取組」がよろしいかと思います。※「動詞」の「取り組む」の活用形「取り組み」「取り組む」とは明確に区別したいところです。 「ビジョンのこれまでの取り組みの成果と課題を明らかにして →ビジョンのこれまでの 取組 の成果と課題を明らかにして」	ご意見を踏まえ修正します。

8	3	20	3.1.1 子ども主体の学びと「双葉郡子供未来会議」	「アクティブ・ラーニング」という表現は今ではあまり使われないが、このままとするのか。	双葉郡教育復興ビジョンの活動はアクティブ・ラーニングから始まっており、これまでを踏襲し「アクティブ・ラーニング」の表現は原案のままとします。
	8	29	3.2.1 子どもたちの自主性・主体性を生かした交流		
9	3	33	3.1.2 「ふるさと創造学」の推進	「復興・再生」→「復興・創生」政策文書等に揃え、創り出す「創生」ではいかがでしょうか。	ご意見を踏まえ修正します。
10	4	6	3.1.2 「ふるさと創造学」の推進	「富岡支援学校（現ふたば支援学校）」を「ふたば支援学校（旧富岡支援学校）」としてはいかがでしょうか。	ご意見を踏まえ修正します。
	5	27	3.1.3 中高一貫校の設置と郡内小中・義務教育学校との連携		
	8	11	3.2.1 子どもたちの自主性・主体性を生かした交流		
11	4	9	3.1.2 「ふるさと創造学」の推進	「平成26年」→「平成26年度」表記の統一。	ご意見を踏まえ修正します。
12	4	10	3.1.2 「ふるさと創造学」の推進	「ふたばワールド」は、双葉8町村関係者なら知っているが、他の委員にも分かるよう注釈等が必要ではないか。	ご意見を踏まえ、注釈を追記します。
13	4	31	3.1.3 中高一貫校の設置と郡内小中・義務教育学校との連携	「～課題に向けて～」→「～課題 解決 に向けて～」 【理由】 第3案に入っていた言葉なので付け加えた。	ご意見を踏まえ修正します。
14	5	17	3.1.3 中高一貫校の設置と郡内小中・義務教育学校との連携	「～推進していくこととする。」→「～推進していくことと した 。」 【理由】 第3案ではこのような表現になっていた。	ご意見を踏まえ修正します。
15	6	5	3.1.4 双葉郡8町村の学校教育環境の充実	後ろにも教育環境の整備があるので「その整備を進めるとともに」を削除。	ご意見を踏まえ削除します。
16	6	8	3.1.4 双葉郡8町村の学校教育環境の充実	双葉郡北部という限定的な表現の修正。	ご意見を踏まえ、北部は削除します。
17	6	16	3.1.4 双葉郡8町村の学校教育環境の充実	「拡充」とは、どんな支援の拡充を想定しているのか。R7概算要求（復興特別会計）で予算は要求しているものの、現状と同程度の支援。	ご意見を踏まえ、拡充は削除します。
18	7	11	3.1.6 「ふたばの教育復興応援団」の協力による、多様な実践的な教育の推進	「～校歌や制服の制作協力、～」→「～校歌や制服の制作協力等、～」 【理由】 文脈上、「等」が入った方がいいのでは。	ご意見を踏まえ下記のとおり修正します。 「福島県立ふたば未来学園高等学校の開校における校歌や制服の制作等をはじめとし、継続した支援により、特色ある教育活動が実現されている。」

19	7	11	3.1.6 「ふたばの教育復興応援団」の協力による、多様な実践的な教育の推進	「責任編集授業」のイメージが湧かないのですが、もはやこの一文は削除してはいいでしょうか。	ご意見を踏まえ削除します。
20	7	29	3.2.1 子どもたちの自主性・主体性を生かした交流	「自主性」「主体性」似たような言葉だが、微妙に意味が異なる2つを並列で標記することにした背景について伺いたい。	異なる意味合いで捉えており、あえて並列で表記しています。
	8	13			
21	8	1	3.2.1 子どもたちの自主性・主体性を生かした交流	「8町村の小学生」→「8町村の小学生や義務教育学校の前期課程の児童」	ご意見を踏まえ下記のとおり修正します。 「8町村の小学校や義務教育学校（前期課程）、特別支援学校の児童」
22	8	3	3.2.1 子どもたちの自主性・主体性を生かした交流	「双葉郡内小学校勤務の教職員」→「双葉郡内小学校・義務教育学校勤務の教職員」	ご意見を踏まえ下記のとおり修正します。 「双葉郡内小学校・義務教育学校・特別支援学校勤務の教職員」
23	8	5	3.2.1 子どもたちの自主性・主体性を生かした交流	「双葉郡の小学校に通う児童」→「双葉郡の小学校・義務教育学校（前期課程）に通う児童」	ご意見を踏まえ下記のとおり修正します。 「双葉郡の小学校・義務教育学校（前期課程）・特別支援学校に通う児童」
24	8	14	3.2.1 子どもたちの自主性・主体性を生かした交流	【提案 ※太字】 ○双葉郡内町村立中学校と中高一貫校の連携活動の一環として、平成27年度より、双葉郡の中学校と福島県立ふたば未来学園高等学校（令和元年度からは、同学園中学校及び富岡支援学校（現ふたば支援学校）も参加）の生徒が一堂に会する「双葉郡中高生交流会」を開催している。今後も、生徒の自主性・主体性を一層引き出すとともに、 学校や地域の垣根を越えた協働的な学びを行うなど 【理由】サミットの取組然り、少人数地域における町村を超えた交流の意義かと思いますので追記。	ご意見を踏まえ修正します。
25	8	26	3.2.1 子どもたちの自主性・主体性を生かした交流	「～再会の集いや子どもたちと地域住民の交流の機会を～」→「再会の集いや」を削除 【理由】 第3案では削除されていた文言。	ご意見を踏まえ削除します。
26	8	27	3.2.1 子どもたちの自主性・主体性を生かした交流	「～子どもたちの主体性を引き出すとともに、や地域住民の参画を促し、～」→「地域住民」の前の「や」を削除 【理由】 第3案では削除されていた。	ご意見を踏まえ削除します。

26	8	32	3.2.2 地域への情報発信と双方向のコミュニケーション	「区域外就学の子どもたち含む」→「区域外就学の子どもたちを含む」	ご意見を踏まえ修正します。
27	9	6	3.2.2 地域への情報発信と双方向のコミュニケーション	「合同授業や共同活動」→「合同活動や協働活動」 ※活動の想定により適宜御変更ください。	ご意見を踏まえ修正します。
28	10	2	3.3.1 地域コミュニティとの協働	「今後もコミュニティースクールをはじめとし、社会に開かれ、地域とともにある学校づくりを推進する。」→「今後もコミュニティ・スクールをはじめとし、社会に開かれた、地域とともにある学校づくりを推進する。」	ご意見を踏まえ修正します。
29	10	23	3.4.1 協議会の運営（ビジョン推進協議会事務局）	「復興は道半ばであり、また、双葉郡8町村・・・」→「復興は道半ばであり、また、 創生に向けた取組の加速化が必要であり、特に双葉8町村・・・ 」	ご意見を踏まえ修正します。
30	10	22	3.4.1 協議会の運営（ビジョン推進協議会事務局）	【提案 ※太字】 ○双葉郡の教育復興については、ビジョンの具現化を図るべく体制を整備し、各施策を着実に進めている。しかしながら復興は道半ばであり、また、双葉郡8町村の中でも今後帰還を進める双葉町町村については、学校の地元再開に向けた準備と仮設校舎で教育活動を行っている学校における教育の質の担保の両立という課題への継続的な対応が必要となるなど、今後も教育復興を推進していくためには、双葉郡8町村の連携と県や国をはじめとした関係機関の協力が不可欠であり、 8町村教育長会議との連携の下、例えば、地域の特色を生かした学びを提供する学校、専門性を向上させる取組みを行う学校、課題を抱える児童・生徒への対応に特化した学校など、自治体の枠を超えた双葉郡として一貫性のある活動を自治体の適切な役割分担のもと進めていくことが、域外からの児童・生徒の呼び込みにもつながることから、積極的に進めることとする。	『3.4 取り組み推進のための体制』の中の『3.4.1 協議会の運営』に関する項目であるため、記載しませんでした。ただ、今後の双葉郡の教育環境を考える上で、大変貴重なご意見であると考えております。
31	10	30	3.4.1 協議会の運営（ビジョン推進協議会事務局）	合議 → 会議？	合議の意味合いで記載していますので原案のままとします。
32	11	3	3.4.1 協議会の運営（ビジョン推進協議会事務局）	「県・国と一体となり推進するためにも」→「県・国とより一体となって取組を更に推進するためにも」	ご意見を踏まえ修正します。
33	11	28	3.4.4 企業、NPO等との連携	【提案 ※太字】 ○双葉郡の復興と関連した教育を進めるために、公益財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構や福島国際研究教育機構（F-REI）をはじめ、企業やNPO等の復興に携わる民間団体や有識者等とも連携し、双葉郡の課題と向き合う実践的な人材育成を進める。「福島イノベーション・コースト構想」において進められている新産業の推進企業との連携、福島国際研究教育機構（F-REI）が取り組む研究分野における人材育成との連携によるキャリア教育の充実を図る。 地域内の産業を支える人材を育成する上で、高度専門教育の場を整備することが重要である。そのため、福島国際研究教育機構をはじめ、域内の企業への就職のルートを新たに開拓することを目的とし、浜通り地域に設置されている工業高校への専攻科設置や、高専化に向けた検討を進める。また、	具体的にご意見をいただきましたが、今後の整備状況を踏まえながら、関係機関と検討する課題であると捉えますので、記載しませんでした。ただ、今後の双葉郡の教育環境を考える上で、大変貴重なご意見であると考えております。

34	11 28	28 3.4.4 企業、NPO等との連携	<p>【提案 ※太字および取消線部】</p> <p>○双葉郡の復興と関連した教育を進めるために、公益財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構や福島国際研究教育機構（F-REI）をはじめ、企業やNPO等の復興に携わる民間団体や有識者等とも連携し、双葉郡の課題と向き合う実践的な人材育成を進める。「福島イノベーション・コースト構想」において進められている新産業の推進企業との連携、福島国際研究教育機構（F-REI）が取り組む研究分野における人材育成との連携によるキャリア教育の充実を図る。地域内の産業を支える人材を育成する上で、関係機関が連携し、高度な専門教育の場を整備することが重要である。そのため、福島国際研究教育機構をはじめ、域内の企業への就職のルートを新たに開拓するとともに人材育成力を強化することを目的とし、浜通り地域に設置されている工業高校への専攻科設置や、高専化に向けた検討を進める。また、今後、関係機関が連携しながら、外部講師派遣や企業・研究所の視察、財政支援、進路選択の支援先、高等学校段階における学びの深化など、幅広い人材育成等に関する協力を推進する(※15) 求めていく。</p> <p>【理由】</p> <p>地域でのイノベ人材育成について文脈を整理。地元人材の育成のため、連携を更に強化していく旨、修正。</p>	<p>具体的なお意見をいただきましたが、今後の整備状況を踏まえながら、関係機関と検討する課題であると捉えますので、記載しませんでした。ただ、ご意見を踏まえ「進路先」の部分のみ下記のとおり修正します。</p> <p>「進路選択への支援」</p>
35	11 28	28 3.4.4 企業、NPO等との連携	<p>(可能ならばの追加)</p> <p>3.4.4企業、NPO等との連携の1項目目（最後ではない方が良い）</p> <p>※JFAアカデミー福島の完全帰還を踏まえて入れるべきかの検討。 (必ず入れてほしいではない。必要があれば入れてもよいのではレベル。)</p> <p>○ 震災後から静岡県を拠点に活動していたJFAアカデミー福島が、令和6年度から双葉郡への完全帰還を果たし、生徒が通う関係中学校・高等学校を中心に一層の連携を推進する。</p>	<p>JFAアカデミー福島に関する内容は、<u>1はじめに</u>の項目内（P2 13行目）にある「双葉郡未来創造型リーダー育成構想」に包含していますので、現時点では改めて記載いたしません。</p>
36	-	-	<p>【文書全体】数字は半角（または全て全角）で統一</p>	<p>ご意見を踏まえ修正します。</p>
37	-	-	<p>(今後の検討事項)</p> <p>※具体的ではありませんが、今後は世界への発信等が大切になると思います。そこで双葉郡の復興のアピールの意味で、各校の取組等に触れてみてはどうか。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。 今後の検討事項にします。</p>